

# フェアラ Fala

vol. 55

September 2019

『フェアラ』は、山形市男女共同参画センターの愛称です。  
『フェアラ』Falaとは、Female(女性)とala(翼)を組み合わせた造語です。



水球競技  
女性、男性が共に活躍中

2 山形市職員・学校教職員のためのLGBT 対応サポートハンドブックを作成しました！！

3 水球へかける熱き思い  
～未来へつながる水球魂～

6 フェアラ開催講座のご紹介

8 Information



山形市制施行130周年記念事業



令和元年度

## 山形市男女共同参画 (ワーク・ライフ・バランス) 講演会

入場無料

演題

### 強さは優しさ 柔道から学んだこと

～一人ひとりが尊重し合える社会へ～

講師

筑波大学教授/元女子柔道選手  
(ソウルオリンピック銅メダリスト、世界選手権金メダリスト)  
山口 香氏

日時

令和元年  
10月26日(土) 14:00から  
16:00まで

- 会場：山形市保健所 大会議室（霞城セントラル3階）
- 定員：先着200名
- 申込方法：事前申し込みが必要です。  
詳しくはチラシまたは市ホームページをご覧ください。

山形市 男女共同参画 講演会

検索

- 駐車場：車でお越しの方への駐車場利用補助はありません。公共交通機関等をご利用下さい。
- お問合せ先：山形市企画調整部男女共同参画センター  
TEL023-645-8077
- その他：講演会の前に「男女共同参画作品入賞者表彰式」を開催します。

#### 講師プロフィール

女子柔道選手として1984年の世界選手権で日本女子初の金メダルを獲得。1988年のソウルオリンピックでは銅メダルを獲得し、翌年に現役を引退。現在は、筑波大学大学院で教鞭をとる傍ら、日本オリンピック委員会理事、日本サッカー協会理事などスポーツ全般の普及・発展に努めている。  
自身の体験から感じた男女の違いと共存することの大切さ、違いを尊重し、違いに価値を見出すことの大切さについて全国各地で講演活動を行っている。



#### 編集後記

男女共同参画の情報紙の編集に参加させて頂くことは、新たに“知識”や“情報”それに“人”に出会える機会を頂いたことだと思っています。旧フェアラの編集に、2期4年間、携わらせて頂き、講義や行事等を通して男女共同参画への扉を開きました。これからは、新生フェアラの編集に共に携わる仲間から教えて頂きながら、また1歩前に進めればと思っています。携われることに感謝です。よろしくお願いいたします。(板垣玲子)



#### 編集協力員

板垣 玲子  
熊谷 功二  
茂木 政樹  
山下みどり

旧来のフェアラに続いての編集協力員です。男女共同参画の社会が実現すれば、男性も女性も性別にとらわれずにもっと生きやすくなるのではないかと考えておりましたので、いい機会を与えられたと思っています。この情報紙で有意義な情報を提供してまいります。(熊谷功二)



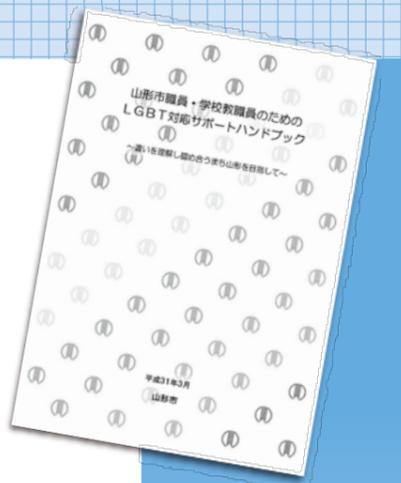
#### お知らせ

平成31年3月まで「ぶらーな」という名称で発行していた山形市の男女共同参画情報紙は、今号から名称を「フェアラ」と変更して発行いたします。市民の皆様によりわかりやすい情報発信を目指して、さらにパワーアップしてまいりますので、これからもご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

- 「フェアラ」は、以下の場所で配布しています。男女共同参画センター「フェアラ」、市役所(1階刊行物コーナー・市民課待合フロア)、霞城セントラル内の市の施設、市の公民館、コミュニティセンター、市立図書館
- 「フェアラ」は、インターネットでも見ることができます。(山形市HPで「フェアラ」で検索してください。)
- 「フェアラ」を読んだご感想・ご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。お待ちしております。

# 山形市職員・学校教職員のための LGBT対応サポートハンドブックを 作成しました!!

山形市では、市職員や学校教職員が性の多様性に対する理解を深め、当事者の方に寄り添った適切な対応ができるよう「山形市職員・学校教職員のためのLGBT対応サポートハンドブック」を平成31年3月に作成しました。



市男女共同参画センターでは、LGBTを取り扱った書籍を集めた「LGBTコーナー」を設けています。

「LGBT」という言葉を知っていますか？

「LGBT」とは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーという、性的指向・性自認が非典型なひとびとのうち代表的とされるものの頭文字を取った総称です。「LGBT」の他にも、インターセックス（身体に男女の区別がつきにくい人）、アセクシャル（同性も異性も好きにならない人）などがあり、そうした非典型のひとびとを広く総称して、性的マイノリティ（セクシュアルマイノリティ、性的少数者）と呼ぶことがあります。

山形市では、第3次「いきいき山形男女共同参画プラン」において、性的マイノリティ（LGBT）について人権尊重の立場から理解の促進を図ることとしています。

しかしながら、多様な性のあり方について、社会の理解が十分には得られておらず、当事者の方が、偏見や差別など様々な困難に直面しているという現状があります。

これらのことから、日常的に様々な市民が手続きや相談に訪れる市役所及び児童生徒への対応を要する学校において、職員が性の多様性に対する理解を深め、当事者の方に寄り添った適切な対応を心掛けることを目的に、性的指向と性自認等に関する基礎知識と、窓口等における日常的な対応の留意点をまとめた「山形市職員・学校教職員のためのLGBT対応サポートハンドブック」を作成しました。

内容を4つに分け、性的マイノリティの基礎知識や、状況に応じた適切な対応や考え方などの事例を紹介しています。市民の皆様にも、山形市での取り組みを知っていただき、理解を深めていただけるよう、山形市ホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。\*

山形市では、多様な生き方を互いに認め合い、尊重できる社会をめざし、今後も理解促進に努めてまいります。

\* 山形市 LGBT ハンドブック で検索ください。

<p><b>性的指向</b> どのような性別の人を好きになるのか</p>	<p><b>性自認</b> 自分をどの性だと認識しているか</p>
<p><b>Lesbian</b> (レズビアン) 同性を好きになる女性</p>	<p><b>Gay</b> (ゲイ) 同性を好きになる男性</p>
<p><b>Bisexual</b> (バイセクシャル) 同性も異性も好きになる人</p>	<p><b>Transgender</b> (トランスジェンダー) 性同一性障害などところと身体の性が一致しない人等</p>

「私の周りにはいないから」と言う方がいますが、「いない」のではなく「言えない」のかも知れません。LGBTの方が身の周りにいることを前提とし、生活や仕事の中でちょっとした気遣いにつなげることが大切です。

# 水球へ かける熱き思い ～未来へつながる水球魂～



山形工業高校水泳部水球部門の皆さんの練習風景

日本で56年ぶりに開催される2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて熱気が高まってきました。世界的に、オリンピック出場選手に占める女子選手の割合は増加傾向にあり、日本においても、最近の夏季オリンピック4大会での金メダル獲得数は、女子選手が男子選手を上回っています。女性アスリートの活躍は、社会全体の女性活躍にもよい影響を与えると期待されます。

東京オリンピック競技の中で目を引くのは水球女子です。オリンピックの団体球技では唯一、日本が過去に出場したことのない種目で、開催国枠で今回初出場することが決まりました。今年の茨城国体では、女子水球が正式種目に採用されています。そこで、今回は、水球に着目していきます。

山形県は、平成4年のべにばな国体で男子水球チームが優勝したのを皮切りに次々と輝かしい記録を残しています。昨年の全国女子水球都道府県対抗戦では見事優勝を果たすなど、水球強豪県として知られています。

そこで、県内で唯一水球競技に取り組んでいる県立山形工業高等学校にお伺いし、水球の練習を見学させていただきました。山形の水球を取り巻く環境について取材させていただきました。

水球とは…7人対7人で水の中で戦うボールゲーム。プールは水深2メートル以上。攻撃中も守備中も常に泳いでいなければならぬ。「水中の格闘技」とまで言われるハードなスポーツ。

## 山形市水泳連盟水球委員会副委員長 岡崎郁子さんにお話を伺いました。



山形市水泳連盟水球委員会副委員長  
おかざき いくこ  
**岡崎 郁子 さん**  
平成26年度公益財団法人山形市体育協会表彰 功労賞受賞。水泳指導員として市内小学校、市内各所の室内プールで幅広く水泳の指導にあたっている。

## 子どもたちと水球

私は、霞城公園内にあった山形スイミングクラブの常勤コーチとして勤務していました。もともと競泳選手で水球経験はありませんでしたが、水球を通して「人」として育ってもらいたいという思いから、平成6年にクラブ内に小・中学生の水球コースを立ち上げ、山形工業高校水球部の卒業生をコーチに招いて、子どもたちに水球を指導してきました。現在は、山形水球クラブとして独立し、小中学生20名が所属しています。ボールを使って練習ができるプールはなかなか無いため、村山地区高校共用プール（山形工業高校内）で高校生と共に練習しています。

子どもたちが水球を始めたきっかけは、親が水球をやっていた、水球をやっている友達に誘われた、インターネットで情報を得たなど様々ですが、全員水球が好きというところが共通点です。

水球のプレーには普段の生活が現れてきます。他人への気遣い、思いやり、周りを見る目、空気を読む心。水球には、人生と同じドラマがあります。

## コーチ育成について

山形水球クラブのコーチは6人（男性3人、女性3人）。みなさん水球の経験者で、情熱をもって子どもたちに指導にあたってくださっています。水球を経験した子どもたちが大人になって、水球の指導に携わりたいと思ってくればいいなと思っています。

結婚すると家庭の事情でなかなか指導にあたれなくなってしまうのが実情ですが、親として自分の子どもを水球の世界へ飛び込ませていく水球経験者が多いのがとても嬉しいです。

## 国体・水球女子初代女王を狙う

昨年9月に「全国女子水球都道府県対抗戦」が開かれ、山形県の女子水球選抜チームが見事優勝を果たしています。

女子水球が初めて正式種目となる今年の国体での活躍も期待されていますが、様々な事情から、優勝メンバー全員で山形県代表として出場できるかどうかはまだわかりません。しかし、国体の最初の優勝チームになりたい！という選手たちの思いは高まってきています。

## 選手への支援体制

接骨院に帯同ケアをしてもらったり、山形工業高校の卒業生にトレーナーになってもらったり、選手の心も体もケアしてもらっています。支援体制に男女差はありませんが、女性には女

てもらったことを最大の目標としています。「全国優勝を果たして日本一の高校生になるのではなく、日本一の高校生として全国優勝を果たしたい」という思いで部活動に取り組んでいます。

## 選手として (曲山さん)

ヨーロッパでは、水球はとてもメジャーで、ハンガリーには水球のプロチームがあるほど知名度が高いスポーツです。私がハンガリーに行った際、それまで水球はマイナースポーツだと思っていたのに、メジャースポーツであることにとて驚きました。

私は水球が好きで続けてきています。水球の楽しさを広く知ってもらうために、茨城国体で女子水球の初代女王になり、山形県内における水球の知名度を上げたいと思っています。

コーチ  
まがりやま  
の  
し  
の  
曲山 紫乃さん  
(公益財団法人山形県スポーツ協会スポーツ技術員)



山形スイミングクラブに通っていた当時、水球コースが立ち上がり、兄と共に水球を始める。全国女子水球都道府県対抗戦、山形県女子水球選抜チームキャプテン。第18回世界水泳選手権大会女子日本代表メンバー。山形工業高校水泳部水球部門OG。

監督  
この  
の  
近野 洋平さん(教諭)



誰よりも先に齋藤先生に水球選手の才能を見抜いてもらい、水球の世界に飛び込む。齋藤先生と共に山形工業高校で教鞭をとりながら、水球選手の育成に取り組んでいる。山形工業高校水泳部水球部門OB。

性のケアをしてもらえるように体制を整えています。

## 水球を通じて若い世代に望むこと

諦めない、辛くなってくれ、しげそつになった時、歯を食いしばって乗り越えてほしい。それが社会に出てから力になります。粘り強く「ねっくー!」、そして自分だけでなく周りとうまく力を合わせてもらいたい。水球は社会の縮図。一人一人がみんなのために積極的に取り組んでもらいたいのです。

また、山形からオリンピック選手が誕生するかもしれないので、これからの水球に注目してほしいですね。

県立山形工業高等学校水泳部水球部門 総監督 齋藤秀樹さん(教諭)、監督 近野洋平さん(教諭)、コーチ 曲山紫乃さん(公益財団法人山形県スポーツ協会スポーツ技術員) から、お話を伺いました。

## 山形工業高校水泳部水球部門

現在の部員は男子14名、女子7名です。男女とも同じプールで同じメニューをこなしています。やはりパワーやスピードは男子の方が上ですが、経験やテクニクによっては、女子が男子に勝るところもあります。精神的なところで女子は粘り強く、コツコツ地味な練習もこなしています。

女子チームは平成8年に女子1名が入部し、

東京オリンピックピックでは開催国枠で女子水球チームが初出場します。日本代表になるには11名という狭い枠になるのですが、自分がそこに入れるよう練習に励んでいきたいと思っています。また、日本代表の候補選手に山形県から6名が選出されているので、できるだけ多くのメンバーと共に東京オリンピックで戦えることを願っています。

みなさんの応援よろしく願っています。

## 女子チーム主将 3年・鈴木優芽さん



水球は他の競技にはないスピード感があり、泳ぎが早くなっても、力がなくても技術の面でカバーできたり、自分の得意なところを生かしたりするのが魅力です。女性として大変なところは、「水中の格闘技」とも言われるほど相手との接触も多いため、水着をひっぱられることもある点です。卒業後は水球の大会を見に行ったり、後輩たちの応援も続けたいです。

## 男子チーム主将 3年・村上波音さん



高校から水球を始めた初心者だったので、それでも全国でも戦えるくらいにまで成長できるのが魅力であり楽しいところです。これも仲間たちのおかげです。個性的なメンバーが多いので、主将としてまとめあげるのが大変でした。インターハイ、国体に出場し、まずは1勝をあげるのが目標です。高校卒業後はOBとして練習に参加し、後輩たちのために水球に携わっていきたいと思います。

その後メンバーが増え、平成12年には山形工業高校女子チームとして出場した全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会にて優勝、翌年は2連覇を成し遂げました。卒業後の進路は、3割が大学に進学、残りは就職です。山形に残った卒業生たちはOBチームとして高校生の練習に付き合ってくれています。

男女に指導の差はありません。男子チーム、女子チームそれぞれに主将がいます。女子チームを

結成する時に、「女子を育てると、男子がつぶれるし、勝てなくなるよ」と周りから言われました。しかし、男子が強いときは女子が奮起して強くなるように、女子が強いときは男子が奮起するというように、相乗効果でチーム力の向上が図れています。

部員たちは、社会に貢献するため、ボランティア活動に意欲的に参加しており、三年生になると日本赤十字社水上安全救助法の講習を受けています。水難事故における安全確保や応急処置の方法を身につけ、人命救助に水球経験を生かしてもらいたいと思っています。

水球を通して、部員たちに人間として成長し



県立山形工業高等学校水泳部水球部門 総監督 齋藤 秀樹さん(教諭)

昭和61年から山形工業高校水泳部水球部門を指導して33年目。平成4年山形で開催されたべには国体において男子水球チームを優勝に導き、以後山形県の水球発展のために尽力。第18回世界水泳選手権大会女子日本代表スタッフも務める。



女子・男子と一緒に練習していました

## 取材を終えて

取材の日は、プールで基礎練習が2時間、ボールを使った練習が2時間、合計4時間のハードな練習でしたが、指導される方、部員のみならず共に情熱を燃やしながら取り組んでいらつしやいました。水球界にずっと携わってきた岡崎さんや齋藤さんは、教える方一人ひとりの顔と名前をしっかり覚えていて、水球にかけるエネルギーがこちらに熱く伝わってきました。その水球魂が近野さん、曲山さんに受け継がれ、生徒たち、そして未来へつなげていく「人生と同じドラマがある」水球から目が離せなくなりました。お忙しい中取材にご協力いただきありがとうございました。

(編集協力員 山下みどり)

# 世界から見た日本の男女共同参画について



講師:山形大学 男女共同参画推進室准教授  
チーフコーディネーター 井上 榮子 さん

以前は日本を含めた世界で男女の扱いに不条理な差があることが多かったのですが、女性が声を上げはじめ法整備が進んできました。世界から比べて日本は変化のスピードが遅く、男女共同参画の面からも様々な面で遅れていることがある等といった、日本と世界の男女共同参画についての意識の違いや、山形大学で取り組んでいる女性研究者への支援やネットワーク等について、詳しくご説明いただきました。

## 6月23日～29日は「男女共同参画週間」です!!

6/22  
(土)  
23  
(日)

### 男女共同参画都市記念講座

ろくじょうのみやすどころ

## 「源氏物語」六条御息所を考える

- I 6月22日(土) 東宮妃が物の怪となる物語
- II 6月23日(日) 物の怪の罪と構造的意味



講師:東北文教大学短期大学部教授  
熊谷 義隆 さん

源氏物語の夕顔の巻、葵の巻そして夕顔の巻に載っている、故東宮妃(六条御息所)について、2回に分けてお話しいただきました。光源氏との関係が続ける中で、意識の上にある愛と無意識で増殖する憎悪・嫉妬。そして、夕顔の怪死事件や六条御息所の生霊による葵の上の死去など、源氏物語を深く読み解きました。



### パネル展示

男女共同参画週間期間中、山形市役所1階エントランスホール、山形市総合福祉センター1階ロビー、市内公民館(霞城公民館を除く7カ所)、コミュニティセンター(5カ所)、山形銀行本店、山形市農協本店において、「男女共同参画早わかり」「LGBTをご存知ですか」等のパネル展示を行いました。



### 女性の権利110番

6/28  
(金)



山形県弁護士会による法律相談が行われました。面談6件、電話2件の相談がありました。

※これから開催する講座につきましては、市報やチラシなどにて随時お知らせいたします。

# ファースト 開催講座の ご紹介



平成31年3月から令和元年6月まで、市男女共同参画センターにて開催された講座をご紹介します。

3/8  
(金)

### ●エンパワーメント講座

## 女性のための防犯講座 ~自分を守るために知っておきたいこと~



講師:警備会社社員 岡崎 有花 さん

女性の犯罪被害は、20代30代が多いことや、女性被害の事件例を紹介していただきました。夜道を歩く時や、一人暮らしでの注意事項を、講師が実行している事も含め「自分の身は自分で守る」を具体的に教えていただいた後、腕をつかまれた時の対処など、参加者同士で護身術の実技演習を行いました。万一被害に遭ったとしても、悪いのは犯人であり被害者ではない、と心に刻んでおくことも重要とのことでした。

### ●働く女性の講座

## 使えるビジネス英会話 ~My name is~は使わない?~

講師:幼稚園等英語教室指導者 後藤 ジャネット さん

握手の仕方から始まり、自分の名前を名乗ったり挨拶をしたりするとき、また相手の言葉を聞きとれなかったときにどう話すかなど、初級の英会話を学びました。参加者同士が英語で話す場面もあり、和やかな雰囲気の中、実践的な会話を練習することができました。



3/14  
(木)

5/25  
(土)

### ●健康講座

## ママとパパと赤ちゃんのためのベビーボンディング

~ベビーマッサージと手遊び歌で~

講師:わたなべ助産院 助産師 渡邊 節子 さん

五感の中で最も早く発達するのは皮膚感覚とのこと。赤ちゃんにマッサージをすると、リラックスするばかりでなく、一番身近な人とのつながりも深まります。赤ちゃんの全身をゆっくりにマッサージしながら、ママもパパも一緒にリラックスする方法を教えてくださいました。

